

V. 今後の課題

今後の課題

平成27年度の調査結果を踏まえ、次年度以降は、学校・教育委員会・大学の協力のもと、ヒアリングや一部の授業について実証を行い、今回提案したコア・カリキュラム（試案）の有効性を検証していく予定である。また、関係学会、研究会等の場でより詳細な報告を行うとともに、多くの立場の方々から意見を伺うことで、コア・カリキュラムの最終版作成に向けて検討を重ねる。さらに、コア・カリキュラム（試案）に基づく実践を公開し、授業についての具体的なイメージの共有を図ることも予定している。

本事業はいわば折り返し地点にすぎず、次年度の活動が大きな意味を持つことは言を俟たない。教員養成・教員研修のコア・カリキュラム作成は、現在議論が行われている次期学習指導要領の改訂や、教員養成・教員研修などの改善に関する検討の動きの中で、先駆けて進めている取り組みではあるが、英語教育関係者にとって、今後の方向性について検討する際、何らかの示唆となることを期待している。またこのような英語教育改革の中にあっても、「児童・生徒・学生・教員の将来の可能性を拓げるため」という視点を失うことなく、取り組みを続けることが肝要であると考えている。

今年度、本事業のメンバーは、英語教育について深く考えることを通して、「言語」とは、「教育」とは、「授業」とは、「人が人を育てる」とは、「公教育の役割」とは、「教師の成長」とは何か、またどのように考えていく必要があるかについて省察する機会を得た。今後さらに多くの関係者の皆様より意見をいただくことで、コア・カリキュラムにさらに磨きをかけ、関係者で共有し活用していきたいと考えている。

教員養成・教員研修に関しては、まだ十分に議論されているとは言えず、今回提案したコア・カリキュラム（試案）は、ゴールではなく、スタートである。このコア・カリキュラム（試案）が、英語教育に携わるの方々にとって、教育を通して日本の子どもたちの未来を考える一助となれば幸いである。